

# RVストレッチャー

## 取扱説明書

RVストレッチャーを快適にお使いいただくための大切な内容が記載されています。お使いになる前によくお読みいただき、また必要なときにはいつでも見ることができるよう大切に保管してください。

### RVストレッチャーの特長

- 無段階ティルトリクライニング機構
- RVポケットタイプの下部フレーム機構により  
軽量・コンパクトに折りたたみ可能
- シートクッションは低反発ウレタン採用



### 目次

- 安全にお使いいただくために・・・P1・2
- 各部の名称・・・・・・・・・・・・P3
- 製品構成・・・・・・・・・・・・P3
- 仕様・・・・・・・・・・・・P3
- 使用前点検・・・・・・・・・・・・P3
- 各部の取り扱い・・・・・・・・P4
- 折りたたみ方・開き方・・・・P5・6
- 折りたたみ固定ベルトについて・・P6
- RVストレッチャーの取り扱いについて・・P7
- お手入れ・メンテナンス・・・・P7

- ⊘ この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
- ❗ この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

## ●警告（使い方を誤ると、死亡または重傷を負う可能性が想定される事項です。）

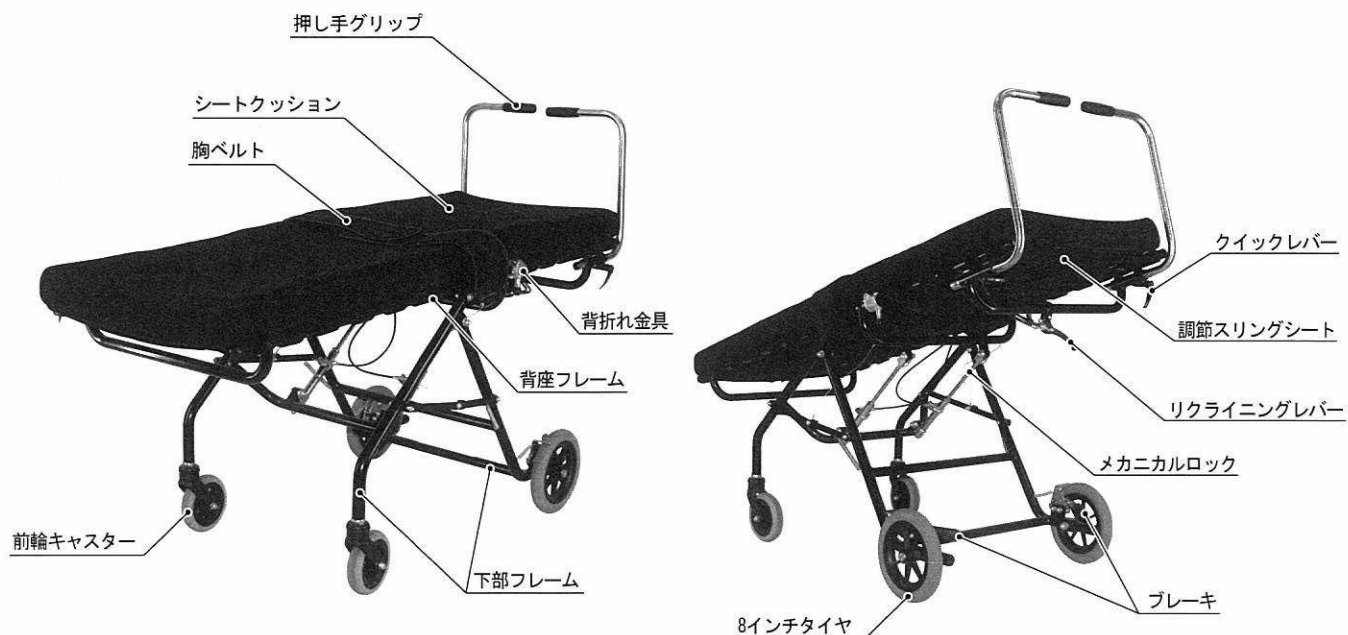
- ⊘ 本人を乗せたまま放置しないでください。
- ⊘ はずみをつけたり、つき放したりしての移動（走行）はしないでください。
- ⊘ フレームの折れ・曲がり、ベルト類のやぶれやマジックテープの劣化、各部が破損した状態での使用はしないでください。
- ⊘ ブレーキの効きが弱い、リクライニングの動きがぎこちないなど、各部に不調をかかえたままでの使用はしないでください。
- ⊘ エスカレーターでの使用はしないでください。（一般的にも禁止されています。）
- ⊘ 子供に操作させないでください。
- ⊘ 坂道での駐車はしないでください。  
（ブレーキの効き具合によっては、ブレーキをかけても勝手に走り出す場合があります。あり大変危険です。やむをえず駐車するときは必ず介助者が付きそってください。）
- ⊘ 座席や背もたれ、フットサポート等に立たせないでください。
- ⊘ 本人を乗せたまま、抱えて移動しないでください。持つ位置によってはフレームが急に折りたたんで介助者の手をはさむおそれがあり、安全に移動することが困難かつ危険です。
- ❗ 処方上、また安全上必要とされたシートベルト類は必ず使用してください。  
（身体状況などによりベルトの使用が困難な場合は処方者や取り扱い業者に）  
ご相談ください。
- ❗ 乗せ降ろしをするときは必ずブレーキをかけてください。
- ⊘ 水平より35°以上起した状態で使用しないでください。構造上、急に折りたたむおそれがあり危険です。
- ⊘ 火気に近づけないでください。シートが燃えたりフレーム本体が熱くなり、火傷するおそれがあります。
- ⊘ 自動車の中では使用しないでください。
- ❗ 屋外で使用中に雷が鳴りだしたら、すぐに降りて安全な場所に移動してください。
- ⊘ 改造や分解はしないでください。

## ● 注意 (使い方を誤ると、人が傷害を負う可能性、または物理的障害が発生する可能性が想定される事項です。)

- ❗ 医師の処方で製作された場合
  - ⊗ 本人以外での使用はしないでください。  
(個人用に処方されたものとなりますので、安易に貸し出したりしないでください。)
  - ⊗ 処方目的以外での使用はしないでください。
- ❗ 段差越えの際のキャスター上げ操作は、ティッピングバーを利用して正しくおこなってください。誤った方法でのティッピングをおこなうと、フレームが破損したり、ケガのおそれがあります。  
(くわしくは別紙ティッピング(前輪上げ)操作説明書をご覧ください)
- ❗ エスカレータの出入り口付近(特に手すり巻き取り部)、エレベータ、自動ドア等の付近で使用する際ははさまれないよう注意してください。
- ❗ 悪路や坂道では特に注意して操作してください。バランスをくずして転倒することがあります。
- ❗ 折りたたみおよび開き操作、またリクライニング操作のときは各部が連動して動きます。指などをはさまないように注意して操作をおこなってください。
- ❗ 本人が乗った状態でのリクライニング操作は、体重がかかり急に倒れることがありますので十分に注意してください。
- ❗ 周辺に小さなお子様がいたときは、指や手足をはさむなどして、けがをするおそれがありますので十分に注意して使用してください。
- ⊗ 折りたたみおよび開き操作の途中の段階での使用はしないでください。
- ⊗ 座席から身体を乗り出したような姿勢では使用しないでください。
- ⊗ 二人乗りなど多人数での使用はしないでください。
- ⊗ 子供を背もたれなどにぶらさがらせないでください。背もたれなどに子供がぶらさがったりすると、後方に転倒する可能性があります大変危険です。そのような使い方はおこなわないでください。
- ⊗ 子供の遊び道具として使用しないでください。
- ⊗ 保護者・介助者等が寄り掛かったり、腰掛け・踏み台として使用しないでください。
- ⊗ 押し手グリップに重い物を引っ掛けしないでください。(後方に倒れることがあります。)
- ⊗ 調節スリングシートが不適切な状態での使用はしないでください。
- ⊗ シートクッションを外した状態での使用はしないでください。
- ⊗ 気温の差の激しい場所や異常に高温な場所(車中など)に製品を放置しないでください。フレームが傷むばかりでなく、熱くなったフレームで火傷をしたり高温になったシートに座ることで、体調に悪影響をおよぼすことがあります。
- ❗ 本人の体質や体調によっては、かゆみ・かぶれ・湿疹などを生じることがあります。そのような場合には直ちに使用をやめ、医師の診察を受けてください。
- ❗ 本人の体調が著しく低下しているときは、十分に注意して使用してください。
- ❗ リクライニングなど、角度可変の設定に注意してご使用ください。角度設定については処方者・医療機関・セラピストに相談確認の上、ご使用ください。
- ⊗ 長時間乗せたままにしないでください。時間設定については処方者・医療機関・セラピストに相談確認の上、ご使用ください。
- ❗ 定期的に処方者・取り扱い業者のチェックを受けてください。
- ⊗ からだに合わない状態での使用はしないでください。成長や状態の変化を感じたときは、すみやかに処方者のチェックを受け、適切な指導のもとに取扱業者の調整を受けてください。
- ❗ 各部のガタやねじのゆるみ、タイヤのすりへりなどは、思わぬ事故につながる可能性があります。定期的に不具合がないか確かめてください。
- ⊗ 製品をゆすったり、踏んだりなどの乱暴な取り扱い、落としたり、たたいたりなど強い力や衝撃を与えないでください。フレームが破損することがあります。
- ❗ 水にぬれた場合、そのままにしておくと部品に錆びが出ることがあります。乾いた布ですみやかに拭きとってください。メカロック・ガスタンパーなどは特に水にぬらさないよう注意してください。
- ⊗ 水中での使用は絶対にしないでください。
- ⊗ 荷物等の運搬に使用しないでください。
- ❗ 保管するときは、湿度の高いところ、雨が降りかかる場所を避けて、風通しのよい屋根のあるところで保管してください。

使用を取りやめるときには(不要になったときには)取り扱い業者にご相談ください。

## 各部の名称



## 製品構成

	数 量
●基本フレーム	1
●調節スリングシート	1
●折たたみ固定ベルト	1

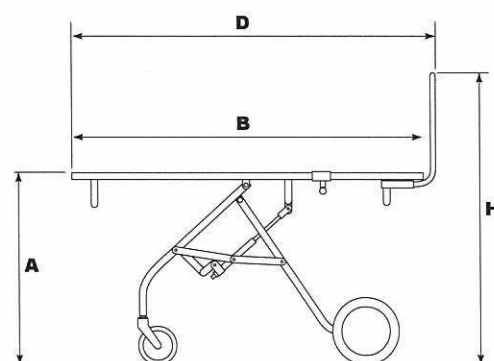
	数 量
●シートユニット	シートクッション 1
	胸ベルト 1

## 仕 様

	単位	小	大
座 幅	mm	450	500
高さ A	mm	600	600
背座長さ B	mm	1100	1300
車体寸法(W×D×H)	mm	550×1140×900	600×1340×900
折たたみ寸法(W×D×H)	mm	550×960×370	600×920×450
基本重量	kg	約12.2	約13.2
調節スリングシート		ナイロン100%	
シートユニット		ポリエステル100%	

※折たたみ寸法(W×D×H)

※基本重量＝基本のシートユニットを取り付けた場合の重量



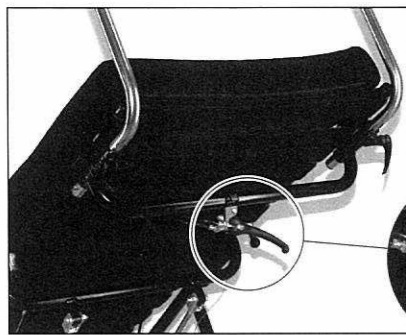
## 使用前点検

- ・ブレーキが正常に効くことを確認してください。
- ・リクライニング機構など各部機構がスムーズに作動することを確認してください。
- ・ネジのゆるみやガタがないことを確認してください。
- ・キャスター、駆動輪にガタや歪みがないことを確認してください。

## 各部の取り扱い

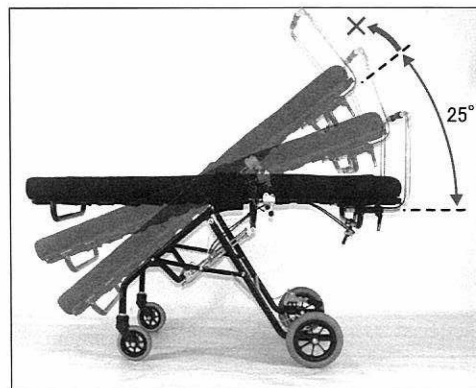
### ●リクライニングレバー

ティルトリクライニングの調節が無段階でおこなえます。



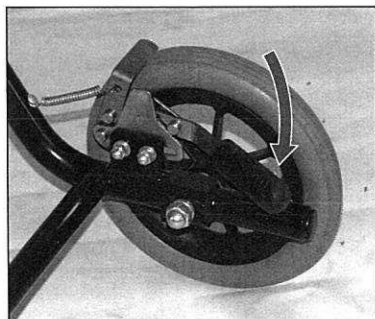
レバーを握るとロックが解除され、握ったまま任意の角度に設定したらレバーを離してください。その角度でロック（角度固定）します。ティルトリクライニングですので、頭部からつま先までが一体のままリクライニング角度が変わります。

リクライニングレバー



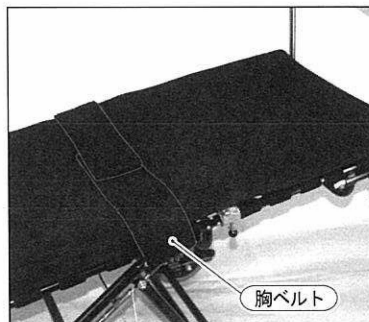
- ・リクライニング角度を変える時は必ず両手で操作をおこなってください。乗っている方の重さで急にリクライニングすることがあり大変危険です。
- ・リクライニングを起こしすぎると体が前方にすべって危険です。
- ・リクライニングを水平より25°以上起こして使用しないでください。25°以上起こすと、折りたたみ機構がはたらくため搭乗中は起こし角に注意してご使用ください。
- ・リクライニングレバーのあそびが多くなってきたらワイヤーの張り調整をおこなってください。
- ・お子様には絶対に操作させないでください。

### ●ブレーキ



ブレーキレバーを下方に踏み込むとブレーキがかかります。そこから上方に跳ね上げると、ブレーキが解除されます。

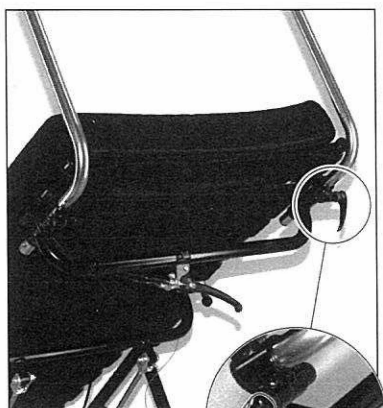
### ●胸ベルトについて



処方上必要とされたベルト類は、安全のために必ず装着してください。

胸ベルトは、取り付け高さや長さの調節ができます。

### ●クイックレバー



折りたたみの際押し手グリップの方向を変えるときに使用します。左右の押し手グリップ根元にあるクイックレバーのロックを解除して、押し手の向きを変えたらロックしてください。クイックレバーのロックがゆるくなってきたら、レバー反対側のツマミネジを締め込んで調整してください。



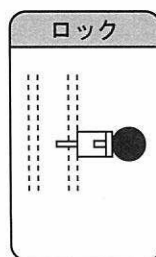
クイックレバー

### ●背折れ金具 折たたみのときに使用します。

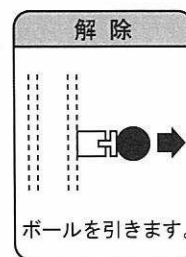


スプリングピン

背折れ金具のスプリングピンのボールを引いてロックを解除し、背もたれを前方に折りたたみます。開くときには、折りたたんだ背もたれを戻して、スプリングピンでロックしてください。使用前には、背折れ金具のロックがかかっていることを確認してください。

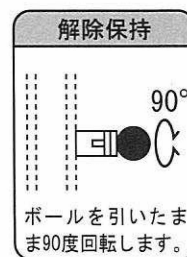


ロック



解除

ボールを引きます。



解除保持

90°

ボールを引いたまま90度回転します。



折りたたみ及び各部の操作をおこなうときは、指などをはさまないよう注意してください

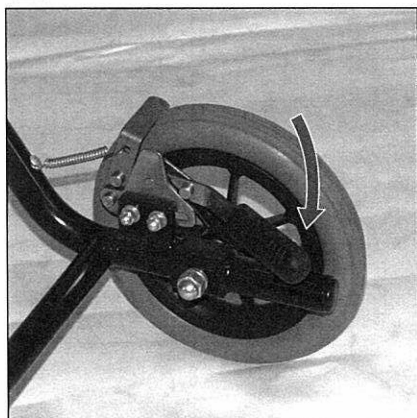
## 折りたたみ方・開き方



- ・折りたたみおよび開き操作のときは各部が連動して動きます。指などを挟まないよう注意して操作をおこなってください。
- ・周辺に小さなお子様がいるときは、特に注意してください。
- ・傾斜や段差がある不安定な場所では作業をおこなわないでください。
- ・折りたたみおよび開き操作時は床面等を傷つけることがありますので十分注意して取り扱ってください。

### 〔折りたたみ方〕

1



フットブレーキをかけてください。

2

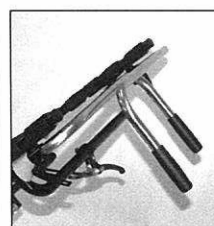


シートクッションを取り外してください。

3

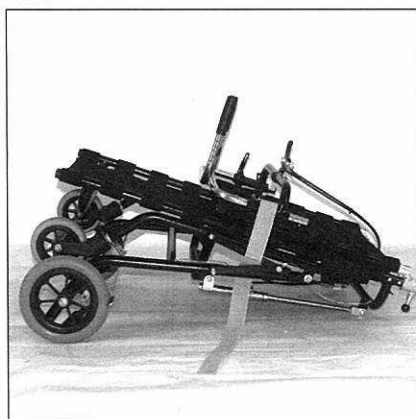


リクライニングレバーを握り、背座フレームをとまるところまで起こしてください。クイックレバーを操作して、押し手グリップの向きを下に変えてください。



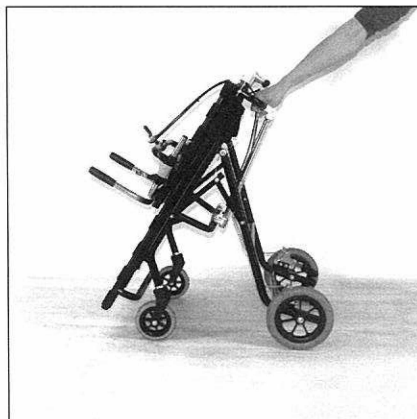
### 〔開き方〕

1



折りたたみ固定ベルトを外してください。

2



前足と後ろ足を開いてください。



手ばさみ注意！

3



背もたれを開いて、背折れ金具のロックをしてください。

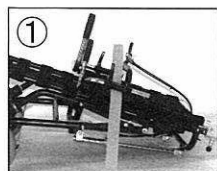


背折れ金具の開閉部に手や指を置かないでください。はさまってケガをする恐れがあります。またシートやベルト等の部品をはさまないよう注意してください。

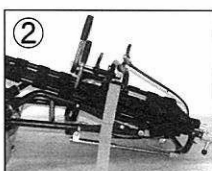


## 折りたたみ固定ベルトについて

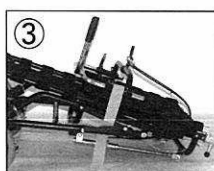
現行製品は、レバーナップ金具・Dリングで固定するように変更されています。別紙を参考にして取り付けてください。



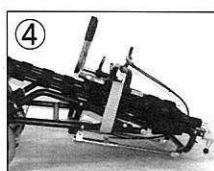
折りたたみ固定ベルトを写真のように本体フレームのスリットに通します。



スリットに通したらマジック面で貼り合わせてください。



折りたたみ操作後、写真のように折りたたみ固定ベルトを後足フレームの内側から通します。



フレームをまくようにしてマジック面でしっかり貼り合わせてください。



折りたたみ時以外は、折りたたみ固定ベルトを写真のように本体背面の任意の場所に貼り付けてください。



この折りたたみ固定ベルトは完全な固定を保証するものではありません。持ち運び時や、立てかけておく際には周囲の状況に十分ご注意ください。

4

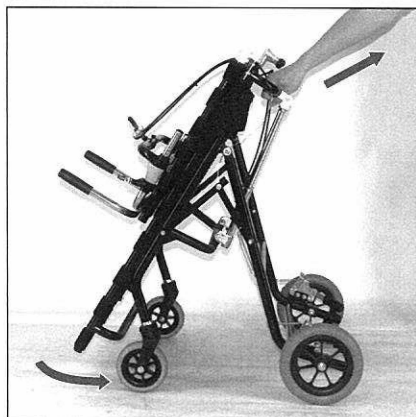


背折れ金具のロックを解除して背座フレームを前方にたたんでください。



手ばさみ注意!

5

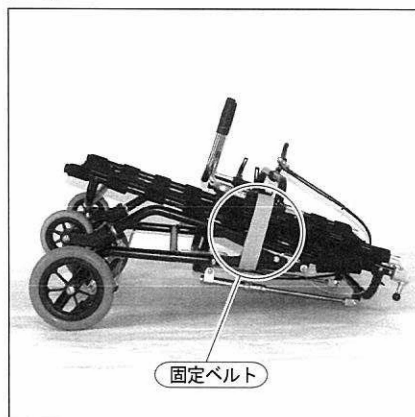


座面後部の丸パイプを持ち、斜め後方へ(矢印の方向)引き上げてください。連動して下部フレーム(前足)がたたみます。



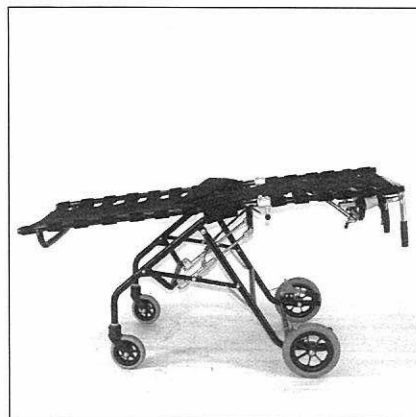
手ばさみ注意!

6



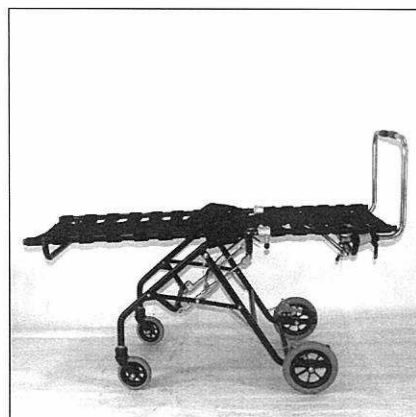
背フレームについている折りたたみ固定ベルトで背・後足を固定してください。

4



リクライニングレバーを握り、背座フレームを倒してください。

5



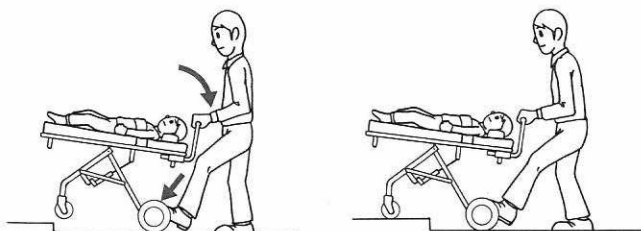
クイックレバーを操作して、押し手グリップの向きを戻してください。

6



シートクッションを取り付けてください。ティルト角を適切な角度に調節してご使用ください。

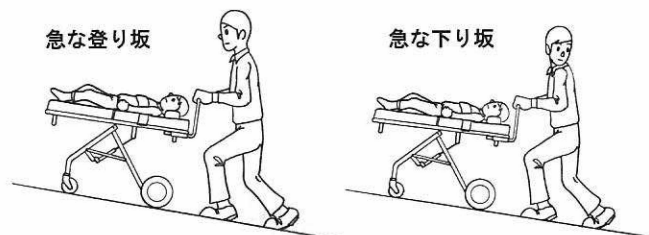
## RVストレッチャーの取り扱いについて



歩道の縁石などの段差を乗り越える場合は、ティッピングバーを踏み込みながら押し手グリップを手前に引き寄せ、まず前輪キャスターを段差に乗せ、次に後輪を浮かせ乗り越えてください。絶対に勢いをつけて乗り越えようとししないでください。

❗ ティッピングバー以外のフレームは踏まないでください。フレームに負担がかかり破損の原因になります。

(詳しくは、別紙「ティッピング(前輪上げ)操作説明書」をごらんください)



急な坂道の登り降りでは、車いすの操作を特に慎重におこなってください。登るときは前向きで、下るときは後ろ向きで押してください。とくに、下るときに前向きで降りると前方へ転倒したり、スピードが出過ぎて止まらなくなる恐れがあります。

❗ 押し手グリップに体重をかけすぎると前輪が持ち上がり後方へ転倒することがあります。

### フレームを抱えるときの注意

❗ フレームを折りたたまずに抱えるときは持つ位置によって可動部分が急に動いたり、フレーム前足と後足が閉じたりして、手をはさんでしまう場合があります。大変危険です。角度可変などの可動部分や折りたたみで連動する部品、並びにその周囲は持たないでください。やむをえず、折りたたまずに抱える場合は、可変機構部や折りたたみに影響のないところ(キャスター取り付け部分のパイプや後輪ブレーキ周辺のパイプなど)をつかんでください。

※本人をのせたまま抱えての移動はしないでください。

## お手入れ・メンテナンス

- ・フレームは絶対に水をかけて洗わないでください。フレームなどの各部汚れは固絞りした布地で拭きとってください。  
※フレーム塗装部分は、たわしなどで強くこすると傷が付き、塗装がはがれることがあります。  
※特にメカニカルロックに水がかかると故障の原因になります。水に濡れたときは乾いた布ですみやかに水気を拭きとってください。
- ・可動部分の動きが悪くなった場合には、その部分のゴミやホコリなどを取り除き、潤滑油等を適量さしてください。  
※メカニカルロックやベアリングには注油しないでください。故障の原因になります。
- ・シートクッションは、ファスナーによる開閉式です。  
シートを洗うときは、ファスナーを開き、中のクッションを取りだしてからカバーを下記の要領で洗濯してください。  
カバーは、マジックテープをすべて相手側に接着した状態できれいに折りたたみ、軽く押し洗いするか、洗濯ネットに入れるなどして、生地を傷めにくい方法で洗ってください。洗ったあとは、陰干しして乾燥させてください。
- ・調整や修理などは、まず取り扱い業者にご相談ください。
- ・保管するときは、湿度の高い場所や雨が降りかかる場所を避けてください。雨や水のかからない風通しのよい場所で保管してください。雨や水にぬれると、各部品、機構にサビが生じるなどして故障の原因になります。また湿度の高い場所では、シートにカビが生えるなどして生地を損なうばかりでなく、健康に害をおよぼすおそれがあります。

### 取り扱い業者・連絡先

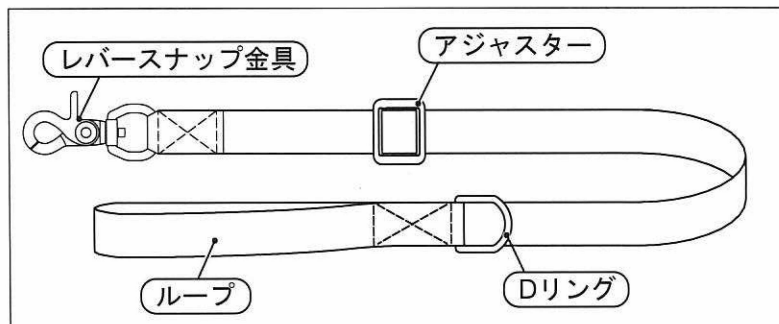
2017. 8. 16

## 開き防止ベルトの取り扱いについて

開き防止ベルトは折りたたんだときに、フレームが開かないようにとめておくためのベルトです。取り扱い説明をよく読み、正しくお使いください。

### ● 開き防止ベルト・各部の名称

- ・折りたたみ後、手順にしたがってフレームに巻き、レバースナップ金具をDリングにかけて使用します。
- ・レバースナップ金具の開閉部が正常に動くこと、ロックされることを常に確認してください。
- ・折りたたんだときの厚みによっては、アジャスターでベルトの長さを調節してください。

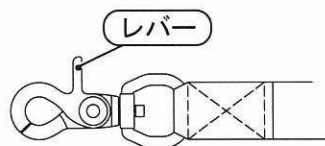


### ● レバースナップ金具の取り扱い

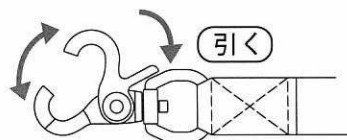
レバースナップ金具をDリングにかけるときは、レバースナップ金具の根元周辺部を握り、レバーを親指で引いて開いてください。開いたままDリングにかけたら親指を離してください。自動的に閉じてロックがかかります。



- ・レバースナップ金具の開閉部で指などを挟まないように注意してください。
- ・Dリングにかけたら、ロックされていることを必ず確認してください。



- ・開閉部は親指でレバーを引くと開きます。

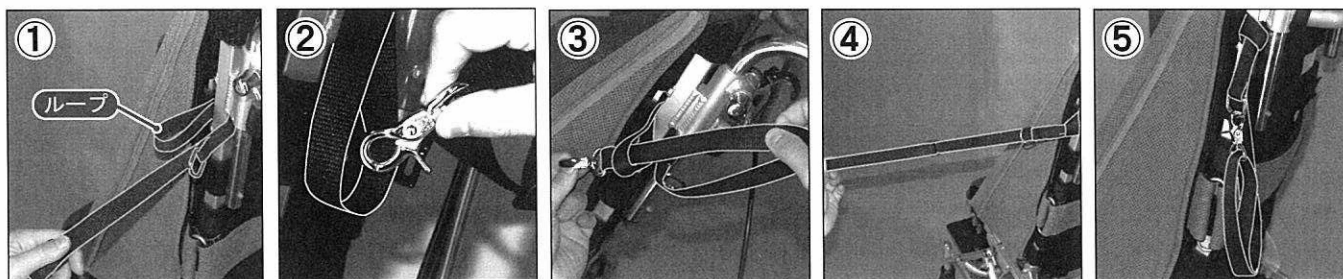


- ・ロックする(閉じる)ときはバネの力で戻ります。

### ■ バギー本体への取り付け方法

開き防止ベルトは、左右どちらかの背フレームパイプに取り付けます。(出荷時は左側に取り付けています) 取り付け位置は上からおよそ1/3を目安にしてください。

バギーを折りたたんだときに、開き防止ベルトを後足フレームの車輪付近でしっかり巻くことができます。



① Dリングが正面になるようにループを背パイプ内側から背フレームのスリット(またはスリングの間)に通します。

② ループにレバースナップ金具をくぐらせてください。

③ ベルトがねじれないように注意して通してください。

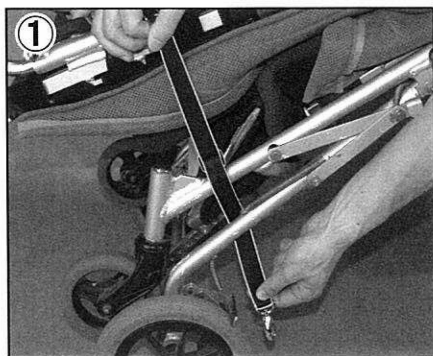
④ ループのところに余分なあまりやたわみがないようベルトをしっかり引ききってください。

⑤ 通常の使用(折りたたんだとき以外)ではベルトがぶらつかないようにレバースナップ金具をDリングにかけてください。

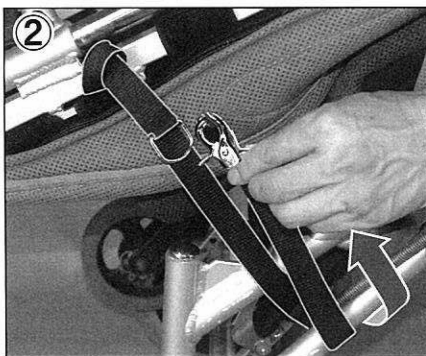


- ・開き防止ベルトに搭乗者が手指をからませたり、また周辺の人や物に引っかからないように注意してください。
- ・メンテナンスやシートの洗濯などにより開き防止ベルトを取り外したときは、必ず取り付け方法の説明にそって取り付け直してください。取り付けたら、折りたたみ操作をおこないレバースナップ金具がDリングにかかることを必ず確認してください。

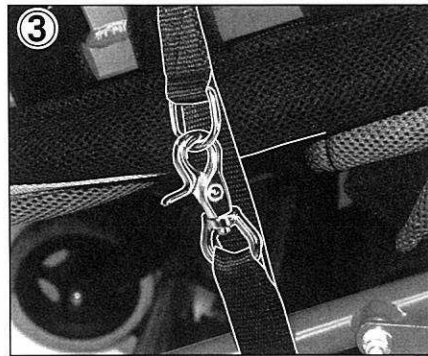
## 開き防止ベルトの使用法



① 折りたたんだら、写真のように開き防止ベルトを後足フレームの内側へ通します。ベルトがねじれないように注意してください。



② 後足フレームを巻くようにして折り返し、レバースナップ金具を操作してDリングにかけてください。



③ バギーを持ち上げる前にレバースナップ金具の開閉部が閉じていて、Dリングに確実にかかっていることを確認してください。



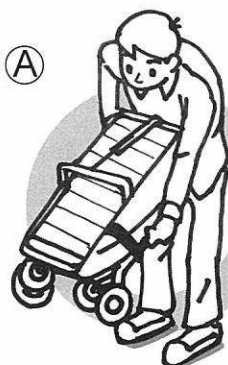
- ・開き防止ベルトを使用するときは折りたたんだフレーム部、各部で指などはさまないように注意してお取り扱いください。
- ・持ち運びや立てかけておく際は、開き防止ベルトを正しくとめて、レバースナップ金具の開閉部が閉じていることを確認してください。
- ・開き防止ベルトをとめていなかったり、とめ方が不適切な状態(ベルトの通し方に誤りがある、レバースナップ金具の開閉部が閉じていないなど)では、フレームが不用意に開いてしまい、手や指をはさむ、周囲の物が破損するなどのおそれがあり危険です。使用方法にしたがって正しくとめてください。
- ・ベルトおよびレバースナップ金具の損傷や劣化に気づいたときは、すみやかに新品と交換してください。開き防止ベルトが傷んでいると、フレームが不用意に開いてしまい、手や指をはさむ、周囲の物が破損するなどのおそれがあり危険です。
- ・車への積み降ろしなど、抱え上げるときは下記の説明にしたがい十分に注意して取り扱ってください。誤った抱え方をすると持ち上げた瞬間の衝撃でフレームが不用意に開いてしまい、手や指をはさむ・周囲の物が破損するなどのおそれがあり危険です。

## 車への積み降ろしなど、抱え上げるときの注意



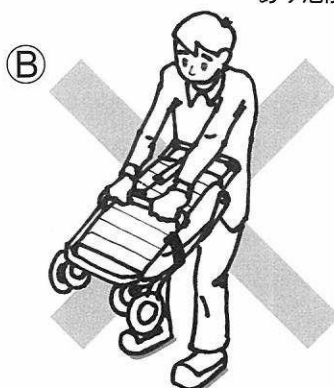
自動車のトランク(荷室)に積み降ろしをする際は、以下の点に注意して取り扱ってください。

図①のように、後輪のついている後足フレームをつかんで、下からバギー全体をかかえるようにして持ち上げてください。

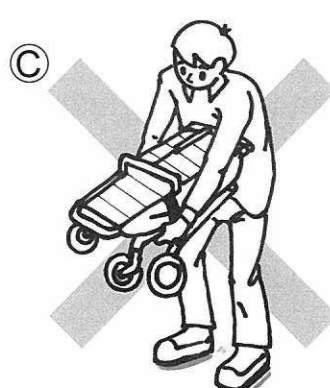


○ 後足フレームを持ち、全体をかかえてください。

図②③のように、背フレームのパイプのみ、もしくは前輪キャスターのついている前足フレームだけをつかんで持ち上げることはしないでください。持ち上げた瞬間の衝撃でフレームが不用意に開いてしまい手や指をはさむおそれがあり危険です。



× 背パイプのみを持っている。



× 前足フレームのみを持っている。